

基礎研 レポート

新型コロナ感染拡大防止に向けた 行動の自粛の状況 ～不安、行動の自粛、今後の展望で6つのグループに 分けられる

保険研究部 准主任研究員 村松 容子
e-mail: yoko@nli-research.co.jp

新型コロナウイルス感染症（Covid19）の感染拡大防止に向けて、手洗い・うがい等の基本的な感染予防の実施や、感染が広がっている地域からの不要不急の外出の自粛、感染予防が行われていない場所や「三密」を避けるなど、自分の感染を予防すると同時に、他人に感染を広げないための行動が求められている。感染した場合、若年者は軽症、または無症状で済むことが多い一方で、高齢者や基礎疾患を持つ人の場合は重症化しやすいとされている。こういった状況から、年齢や居住地、職種だけでなく、休校等によって子どものために自宅待機しなくてはいけないケースや、時差通勤・在宅勤務を推奨する職場と、そういった対策がない職場等、個々の置かれた状況によって感じる不安や行動の自粛度合には差があるようだ。

そこで、本稿では、感染や生活への影響に対する不安の有無、移動自粛の度合い、収束に向けた予想、将来展望に関する質問結果を用いて、潜在クラス分析によるグループ分けを行った。使用したデータは、ニッセイ基礎研究所の「[第1回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査](#)¹」によるものである。

1—使用したデータ

「[第1回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査](#)」の質問のうち、不安の有無に関する質問24問、行動や行動時間の増減に関する質問13問、感染の収束や経済回復等への展望に関する質問11問の計48問を使って、潜在クラス分析を行った。潜在クラス分析は、回答の特徴に基づいてグループ（クラス）に分ける統計手法の1つで、多くの観測データを単純化できることが特徴である。

分析に使用した質問項目は図表1のとおりである。不安については、感染そのものに対する不安のほか、家計の不安、世界経済の不安、休校の子どもへの影響、高齢家族への影響を含み、感染の収束や経済回復等の展望には、マイナンバーカード取得、キャッシュレス、デジタル化などの新習慣の定着に関する展望を含む。

¹ 2020年6月26～29日に実施。インターネット調査。対象は、全国に住む20～69歳の男女（株式会社マクロミルのモニタ）。有効回答2,062。

図表1 分析に使用した質問項目（いずれも、今年1月頃と比べて現在どうか）

不安（不安ありなし）	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の感染による自分や家族の健康状態の悪化 ・感染が懸念されても適切な検査が受けられない ・自分や家族の感染による人間関係への悪影響 ・自分や家族の感染によって収入が減ること ・自分や家族の持病や新型コロナ以外の疾患などによる健康状態の悪化 ・休校などによる子どもの学習の遅れ ・休校などによって、子どもの身体的な成長が十分でないこと ・高齢な家族の生活維持が難しくなる ・運動不足による高齢な家族の老化や身体機能低下 ・世界経済が悪化し、世界大恐慌に陥る ・日本経済が悪化し、国内の企業業績や雇用環境が悪化する ・勤務先の業績悪化による収入減少、雇用の不安定化 ・感染状況の公表や厚生労働省によるコロナアプリの開発など 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーでの買い物 ・デパートやショッピングモールでの買い物 ・ネットショッピング ・電車やバスでの移動 ・飲食店の店内での飲食 ・遊園地やキャンプ場などの屋外のレジャー施設の利用 ・屋内の複合レジャー施設、カラオケの利用 ・家族や友人との非対面でのコミュニケーション ・家族や友人との対面でのコミュニケーション ・通勤・通学を含む移動時間 ・テレビ・ラジオ・新聞・雑誌を見たり読んだりする時間 ・勤務先への出社 ・在宅勤務などのテレワーク
	<ul style="list-style-type: none"> ・によって個人情報保護されない事態が生じる ・感染リスクから、電車やバスを利用しにくくなる ・感染リスクから、外食がしにくくなる ・感染リスクから、屋外のレジャー施設を利用しにくくなる ・感染リスクから、屋内の複合レジャー施設、カラオケなどを利用しにくくなる ・自粛ムードでぜいたくをしにくくなる ・感染リスクから、ネット通販が一層普及することで店舗が減る ・キャッシュレス決済サービスが、使いこなせない ・SNSの投稿や閲覧が増えることで、ネット上のトラブルが増える ・在宅勤務が増え、上司や部下、同僚とのコミュニケーションが取りにくくなる ・在宅勤務ができないため、感染リスクなどから仕事を継続しにくくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・半年以内に世界の新型コロナウイルスの感染拡大が収束 ・半年以内に国内の新型コロナウイルスの感染拡大が収束 ・半年以内にワクチンや特効薬が開発される ・1年以内に世界経済が回復 ・2021年夏の東京五輪が「完全な形」で開催される ・生活に多大な影響を与える政治判断が増え、政治への関心が高まる ・給付金の申請などからマイナンバーカードの取得率が高まる ・国や企業のオンライン対応が進み、デジタル化が進展する ・三密を避け、社会的距離を保つことを意識するなどの行動が習慣化する ・店舗での買い物より、ネット通販が主流になる ・現金の利用より、キャッシュレス決済が主流になる

（出典）ニッセイ基礎研究所「第1回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」（以下、同じ）

2——分析結果

1 | 各クラスの概要

クラス数は、情報量基準（BIC）を利用して6つとした。

各クラスの特徴を先に紹介すると、以下のとおりである（図表2）。

クラス1：あらゆる面で不安を感じており、デパート等での買い物や娯楽施設の利用の面では行動の自粛を行っている。ただし、就労世代が多いことから、移動やスーパーでの買い物の自粛度合いはやや低い。感染の収束や経済の回復には悲観的であるが、デジタル化、キャッシュレス決済等の新習慣等の定着への展望は明るい。

クラス2：クラス1と同様にあらゆる面で不安を感じており、買い物や移動等の行動を行っている。年齢層が高いことから、収入に対する不安はクラス1より低い。移動等の自粛はクラス1より徹底している。感染の収束や経済の回復には悲観的であるが、デジタル化、キャッシュレス決済等の新習慣等の定着への展望は明るい。

クラス3：もっとも不安を感じていないクラスで、移動や買い物、娯楽施設の利用等の行動の変化は少ない。デジタル化への展望は明るいが、感染の収束、経済の回復、新習慣等の定着には否定的である。

クラス4：各種不安は少なく、感染の収束や経済の回復への展望が明るい。移動等の行動については、減少している人と増加している人が混在している。デジタル化や新習慣等の定着には否定的である。

クラス5：不安の有無や行動について「該当なし」の回答が多く、年齢層が高いことから、普段から活動が少ないと思われる。感染の収束や経済の回復、デジタル化の進展、新習慣等の定着については否定的だった。

クラス6：不安の有無、行動の増減、将来展望いずれも「どちらともいえない」と回答しており、主な特徴は見いだせなかった。

各クラスのボリュームは、クラス1から順に31.3%、19.5%、13.4%、13.3%、12.4%、10.2%だった。

属性別にクラス構成をみると、性別では、クラス3、4、6に男性が多く、クラス2、5に女性が多かった。年齢別では、クラス4、クラス1、クラス6、クラス2とクラス5の順に若い傾向があった。未既婚でみると、未婚者はクラス3、4、5、6に多く、既婚者はクラス2に多かった。

図表2 各クラスの属性別構成とクラスの概要

	N	クラス					
		1	2	3	4	5	6
全体 (各クラスのボリューム)	2,062	31.3	19.5	13.4	13.3	12.4	10.2
性別							
男性	1,032	31.9	6.8	18.0	19.4	10.4	13.5
女性	1,030	30.8	32.2	8.7	7.1	14.3	6.9
年齢別							
20代	320	24.6	16.9	12.6	31.3	8.9	5.6
30代	402	36.1	16.0	14.3	15.7	9.1	8.6
40代	474	38.0	15.1	12.9	13.6	7.3	13.1
50代	399	34.5	17.5	12.3	7.8	14.1	13.8
60代	467	22.3	30.3	14.4	3.1	21.2	8.7
未既婚							
未婚	802	30.4	10.3	15.7	17.2	14.0	12.4
既婚	1,260	31.9	25.3	11.9	10.7	11.3	8.8
回答の特徴							
不安の有無		あり	あり	なし	なし	該当なし	
行動や行動時間の増減		やや増	増	変化なし	増と減が混在	活動が少ない	どちらともいえない
感染の収束・経済の回復		否定的	否定的	否定的	肯定的	否定的	
デジタル化の進展		肯定的	肯定的	肯定的	否定的	否定的	
新習慣等の定着		肯定的	肯定的	否定的	否定的	否定的	

(注) 全体と比べて高いセルに網掛け(有意水準5%)

2 | クラス別の質問への回答の詳細

不安の有無、行動や行動時間の増減、感染の収束や経済の回復、将来への展望のに対する詳細な回答を図表3～5に示す。

(1) 不安の有無

まず、クラス1とクラス2の不安の有無をみると、あらゆる不安項目に対して、不安を感じている割合が高い。ただし、クラス2は、「勤務先の業績悪化による収入減少、雇用の不安定化」「在宅勤務が増え、上司や部下、同僚とのコミュニケーションが取りにくくなる」「在宅勤務ができる仕事ではないため、感染リスクなどから仕事を継続しにくくなる」に関しては、不安を感じていない点でクラス1と異なる。また、「ネット通販やスマホ決済などのキャッシュレス決済サービスが、使いこなせない」に関しては不安を感じている。これらのことから、クラス1は比較的若い就労世代が多く含まれており、クラス2には高年齢者が多く含まれていると推測できる。

図表3 不安の有無に関する質問への回答

		全体	クラス					
			1	2	3	4	5	6
自分や家族の感染による自分や家族の健康状態の悪化	不安あり	55.9	81.3	80.5	29.8	33.7	36.5	17.5
	どちらともいえない	23.2	12.6	11.8	15.6	32.7	22.6	75.6
	不安なし	14.6	3.6	5.2	49.7	31.3	9.8	4.4
感染が懸念されても適切な検査が受けられない	不安あり	53.9	81.7	82.5	21.4	21.4	41.6	14.0
	どちらともいえない	24.2	13.4	10.1	19.6	34.9	22.9	77.8
	不安なし	16.3	3.1	5.5	53.7	40.8	8.6	5.8
自分や家族の感染による人間関係への悪影響	不安あり	48.0	72.9	71.0	20.7	30.6	28.4	10.1
	どちらともいえない	26.7	16.5	15.7	19.3	35.1	22.5	82.7
	不安なし	14.8	5.5	7.1	48.3	31.5	6.2	3.0
自分や家族の感染によって収入が減ること	不安あり	51.6	80.7	65.3	27.6	32.2	32.8	15.1
	どちらともいえない	22.7	11.0	15.0	17.2	30.6	16.3	77.4
	不安なし	15.3	5.8	7.5	45.1	36.0	5.3	5.1
自分や家族の持病や新型コロナ以外の疾患などによる健康状態の悪化	不安あり	44.2	67.1	61.8	17.1	32.1	24.6	15.7
	どちらともいえない	25.5	16.9	16.5	17.1	29.8	27.4	72.3
	不安なし	19.7	10.6	14.6	50.4	33.9	12.2	8.1
休校などによる子どもの学習の遅れ	不安あり	18.5	31.8	24.4	10.5	10.0	4.4	4.7
	どちらともいえない	7.5	4.5	5.6	3.3	14.4	2.1	23.5
	不安なし	6.7	3.4	4.3	13.3	17.4	3.3	3.4
休校などによって、子どもの身体的な成長が十分でないこと	不安あり	19.3	31.0	27.9	8.7	15.1	3.7	4.8
	どちらともいえない	8.2	4.8	4.6	3.0	16.2	4.5	25.8
	不安なし	6.1	4.5	3.6	15.8	10.5	2.5	1.5
高齢な家族の生活維持が難しくなる	不安あり	33.1	47.7	48.9	9.0	34.0	13.9	12.0
	どちらともいえない	20.2	11.2	10.5	15.8	33.8	12.5	64.0
	不安なし	15.3	8.9	10.3	37.6	26.3	13.6	2.9
運動不足による高齢な家族の老化や身体機能低下	不安あり	36.3	52.9	58.8	16.0	23.6	15.1	11.4
	どちらともいえない	21.0	14.0	7.8	12.8	35.2	15.8	66.3
	不安なし	14.7	6.1	7.9	35.0	37.1	10.3	4.1
世界経済が悪化し、世界大恐慌に陥る	不安あり	66.7	92.1	86.7	43.6	32.8	61.9	31.2
	どちらともいえない	19.6	6.1	9.1	24.3	31.0	20.3	59.0
	不安なし	10.9	1.7	4.2	31.7	31.9	2.1	8.4
日本経済が悪化し、国内の企業業績や雇用環境が悪化する	不安あり	71.9	95.5	92.5	51.5	41.3	63.0	37.3
	どちらともいえない	17.9	3.2	5.4	22.2	36.7	18.1	57.0
	不安なし	7.6	1.1	1.5	25.5	20.6	2.4	4.8
勤務先の業績悪化による収入減少、雇用の不安定化	不安あり	37.6	78.7	1.5	30.1	26.2	24.2	21.3
	どちらともいえない	16.3	10.8	0.7	13.5	32.6	11.9	50.6
	不安なし	12.5	9.6	0.3	31.2	32.5	4.9	3.5
感染状況の公表や厚生労働省によるコロナアプリの開発などによって個人情報保護されない事態が生じる	不安あり	46.3	62.3	67.0	17.7	41.1	34.3	16.7
	どちらともいえない	32.0	22.7	20.9	33.0	30.5	35.0	78.2
	不安なし	17.3	12.5	10.1	47.1	25.1	11.2	3.7
感染リスクから、店舗での買い物しにくくなる	不安あり	47.3	69.0	74.0	14.7	27.1	38.3	10.0
	どちらともいえない	28.1	18.7	15.6	17.0	40.1	28.0	80.1
	不安なし	22.2	11.9	9.6	67.7	30.0	21.1	9.0
感染リスクから、電車やバスを利用しにくくなる	不安あり	42.5	65.6	69.0	14.0	23.1	21.5	9.5
	どちらともいえない	21.3	13.9	9.8	13.5	31.6	16.5	68.6
	不安なし	17.8	6.2	5.4	52.7	43.0	10.1	7.5
感染リスクから、外食しにくくなる	不安あり	52.8	78.9	80.8	22.6	25.5	37.9	12.2
	どちらともいえない	22.2	13.7	10.0	10.4	34.4	18.5	75.5
	不安なし	17.9	5.7	6.9	60.5	34.6	13.8	3.5
感染リスクから、屋外のレジャー施設を利用しにくくなる	不安あり	36.9	58.2	53.2	11.5	37.4	11.6	3.8
	どちらともいえない	21.6	17.8	11.3	12.3	27.9	10.8	70.4
	不安なし	15.5	7.9	6.8	47.4	33.6	4.3	4.0
感染リスクから、屋内の複合レジャー施設、カラオケなどを利用しにくくなる	不安あり	40.1	61.7	52.0	17.0	44.7	12.6	9.0
	どちらともいえない	17.2	10.7	7.5	9.4	27.5	9.0	62.1
	不安なし	11.8	4.7	6.6	36.3	25.2	2.7	5.3
自粛ムードでぜいたくをしにくくなる	不安あり	19.2	29.1	25.5	5.0	23.7	7.5	3.9
	どちらともいえない	38.9	39.2	38.5	17.8	32.6	35.2	79.6
	不安なし	30.4	26.1	26.7	66.6	40.0	14.8	9.9
感染リスクから、ネット通販が一層普及することで店舗が減る	不安あり	30.3	43.3	41.0	10.5	35.2	12.6	10.7
	どちらともいえない	35.9	32.3	32.9	19.0	33.6	37.3	76.5
	不安なし	26.9	20.8	24.6	64.7	30.0	18.9	6.4
ネット通販やスマホ決済などのキャッシュレス決済サービスが、使いこなせない	不安あり	19.6	24.4	29.5	4.8	32.1	8.0	3.2
	どちらともいえない	28.0	20.7	22.0	11.1	34.3	29.1	74.5
	不安なし	44.5	49.8	44.3	78.9	29.2	33.2	16.7
SNSの投稿や閲覧が増えることで、ネット上のトラブルが増える	不安あり	23.8	35.5	34.6	3.6	30.7	8.9	3.0
	どちらともいえない	32.1	29.6	30.9	14.1	29.7	24.7	77.2
	不安なし	29.1	25.1	22.8	66.8	36.9	16.1	8.9
在宅勤務が増え、上司や部下、同僚とのコミュニケーションが取りにくくなる	不安あり	12.1	24.3	0.0	2.3	27.4	0.5	5.3
	どちらともいえない	14.5	15.7	0.0	5.0	28.9	1.8	47.2
	不安なし	13.0	13.5	0.0	32.6	29.4	1.8	2.4
在宅勤務ができる仕事ではないため、感染リスクなどから仕事を継続しにくくなる	不安あり	20.7	46.4	0.3	7.8	27.7	8.1	4.0
	どちらともいえない	18.6	18.1	0.5	14.1	31.7	10.1	54.2
	不安なし	12.7	11.4	0.0	36.4	25.6	3.2	4.2

(注) 全体と比べて5ポイント以上高いセルに網掛け。「該当しない」の割合は記載を省略している(以下、同じ)。

次に、クラス3とクラス4についてみると、他クラスと比べて「不安なし」の割合が高い。クラス3は、「不安なし」が特に高いのに対し、クラス4は、「どちらともいえない」も高くなっている。また、クラス4は、「ネット通販やスマホ決済などのキャッシュレス決済サービスが、使いこなせない」「SNSの投稿や閲覧が増えることで、ネット上のトラブルが増える」で不安を感じている点でクラス3と異なる。クラス4は、「勤務先への出勤」「在宅勤務などのテレワーク」への不安が「どちらともいえない」が高い人を含んでいることから、クラス4の方は就労世代が多く含まれていると推測できる。

最後に、クラス5とクラス6についてみると、クラス6は「どちらともいえない」の割合が高く、クラス5は、「該当しない」の割合が高い。

(2) 行動や行動時間の増減

行動や行動時間の増減をみると、クラス1とクラス2はいずれも「デパートやショッピングモールでの買い物」「電車やバスでの移動」「屋外のレジャー施設の利用」等は減少、「ネットショッピング」は増加しており、いわゆる「自粛」が行われている。さらに、クラス2は「スーパーでの買い物」「家族や友人との対面でのコミュニケーション」が減少、「家族や友人との非対面でのコミュニケーション」が増加しており、クラス1と比べて、より行動の自粛を徹底しているようだ。

クラス4も、買い物や電車やバスでの移動、各種施設の利用が減少した人の割合が、増加した人の割合を上回ってはいるが、他クラスと比べて増加した人の割合が高く、自粛度合いが弱いようだ。

クラス3とクラス6は「どちらともいえない」の割合が高い。また、クラス5は「該当しない」の割合が高く、各種行動を通常から行っていない人が多いようだ。

図表4 行動や行動時間の増減に関する質問への回答

		全体	クラス					
			1	2	3	4	5	6
スーパーでの買い物	増加	9.8	12.3	9.6	6.5	17.5	1.3	6.4
	どちらともいえない	54.7	52.1	37.8	65.5	46.8	64.3	78.7
	減少	31.2	34.8	50.7	21.7	27.6	24.0	8.6
デパートやショッピングモールでの買い物	増加	4.3	2.6	2.5	2.8	18.1	0.8	1.4
	どちらともいえない	24.4	16.6	13.2	30.3	31.9	23.5	53.2
	減少	47.2	64.7	60.3	36.5	42.4	22.5	19.0
ネットショッピング	増加	24.6	31.4	37.6	15.3	24.1	12.4	7.0
	どちらともいえない	53.5	52.7	42.0	66.9	43.8	55.3	71.0
	減少	7.8	6.7	5.6	3.8	23.2	3.9	5.0
電車やバスでの移動	増加	2.5	1.5	2.0	1.5	10.6	0.6	0.0
	どちらともいえない	22.3	19.9	8.0	27.1	33.1	19.6	40.1
	減少	39.1	47.4	52.4	32.2	42.6	16.5	20.4
飲食店の店内での飲食	増加	4.7	5.1	2.9	3.2	13.9	0.5	1.9
	どちらともいえない	21.6	12.3	11.1	33.5	33.3	19.5	42.3
	減少	53.7	70.1	65.1	43.6	40.0	37.5	32.4
屋外のレジャー施設の利用	増加	3.4	1.1	0.5	1.0	19.3	0.8	1.8
	どちらともいえない	9.6	5.0	3.7	12.4	22.3	4.0	21.9
	減少	27.7	44.8	33.0	14.5	24.7	6.5	12.1
屋内の複合レジャー施設、カラオケの利用	増加	3.1	0.3	0.5	1.8	18.7	0.7	0.5
	どちらともいえない	7.7	4.2	1.6	8.8	19.1	1.3	21.9
	減少	23.6	35.8	25.2	15.8	26.2	6.4	11.2
家族や友人との非対面でのコミュニケーション	増加	21.9	25.2	32.4	9.7	39.0	5.9	4.6
	どちらともいえない	60.2	62.4	54.5	69.9	34.5	64.6	80.1
	減少	7.9	6.2	6.2	7.8	21.0	4.5	3.1
家族や友人との対面でのコミュニケーション	増加	12.6	16.4	13.0	4.4	25.8	4.2	3.8
	どちらともいえない	48.5	43.5	33.8	60.3	40.5	56.1	77.3
	減少	31.7	35.7	49.1	27.6	27.7	21.8	8.7

通勤・通学を含む移動時間	増加	4.7	3.2	1.5	3.8	19.7	2.3	0.0
	どちらともいえない	53.3	67.9	14.2	63.6	47.4	51.9	78.7
	減少	17.9	24.9	15.0	15.1	28.4	3.2	9.9
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌を見たり読んだりする時間	増加	32.1	41.7	42.9	19.2	38.8	14.5	11.4
	どちらともいえない	56.2	50.5	44.8	70.8	40.0	72.3	78.0
	減少	6.1	4.0	7.5	3.5	17.3	1.5	3.9
勤務先への出勤	増加	3.5	3.0	0.0	2.6	15.9	0.8	0.5
	どちらともいえない	42.6	58.5	0.2	57.5	37.3	39.5	65.5
	減少	19.5	35.5	0.3	13.4	35.2	6.5	9.9
在宅勤務などのテレワーク	増加	11.5	20.9	0.0	8.5	23.7	1.2	5.4
	どちらともいえない	14.7	17.7	1.1	15.3	27.7	4.4	26.4
	減少	3.6	1.9	0.0	0.0	19.3	1.2	2.7

(3) 感染の収束や経済の回復、将来への展望

感染の収束や経済の回復、将来への展望をみると、クラス1とクラス2は、感染の収束や経済の回復には悲観的だが、収束後は政治への関心が高まり、マイナンバーカード取得、デジタル化等の新習慣等の定着は進展すると考えている。クラス3は、クラス1やクラス2と同様に、感染の収束や経済の回復に対する展望が暗い。デジタル化は進展すると考えているが、新習慣等の定着についての展望は暗い。

一方、クラス4は、感染の収束や経済の回復に対する展望は明るいが、政治への関心の高まり、マイナンバーカード取得についての展望は暗い。また、クラス5は、感染の収束や経済の回復に対する展望はクラス1やクラス2と同様に暗く、マイナンバーカード取得、デジタル化等の新習慣の定着に対しては悲観的だ。クラス6は、感染の収束や経済の回復、将来展望についても「どちらともいえない」が高い。

図表5 感染の収束・経済の回復等将来の展望に関する質問への回答

		全体	クラス					
			1	2	3	4	5	6
半年以内に世界の新型コロナウイルスの感染拡大が収束	そう思う	11.4	6.3	8.2	10.2	34.3	6.4	10.5
	どちらともいえない	21.7	10.3	12.8	18.3	46.6	19.4	48.4
	そう思わない	67.0	83.5	79.0	71.5	19.1	74.2	41.1
半年以内に国内の新型コロナウイルスの感染拡大が収束	そう思う	16.2	13.0	12.1	18.1	37.8	11.7	8.7
	どちらともいえない	25.5	13.0	19.8	23.0	44.6	25.8	52.7
	そう思わない	58.3	74.0	68.2	58.9	17.6	62.6	38.6
半年以内にワクチンや特効薬が開発される	そう思う	17.5	14.2	15.9	17.9	32.9	14.0	14.4
	どちらともいえない	26.7	16.2	19.8	22.0	43.9	31.7	49.7
	そう思わない	55.8	69.6	64.3	60.0	23.3	54.4	36.0
1年以内に世界経済が回復	そう思う	12.3	6.1	5.3	9.1	51.4	4.4	7.1
	どちらともいえない	21.1	11.4	14.3	18.9	32.6	25.2	47.1
	そう思わない	66.6	82.5	80.4	72.0	16.0	70.4	45.8
2021年夏の東京五輪が「完全な形」で開催される	そう思う	10.1	4.4	3.9	8.5	42.7	6.4	3.5
	どちらともいえない	20.1	9.7	13.6	13.3	34.0	22.5	52.1
	そう思わない	69.8	85.9	82.5	78.2	23.3	71.1	44.4
生活に多大な影響を与える政治判断が増え、政治への関心が高まる	そう思う	41.2	50.7	55.2	40.9	33.8	27.8	11.3
	どちらともいえない	33.0	23.8	21.7	24.4	43.7	41.1	70.8
	そう思わない	25.8	25.6	23.1	34.7	22.5	31.1	17.9
給付金の申請などからマイナンバーカードの取得率が高まる	そう思う	45.3	58.2	51.2	48.4	38.2	29.3	19.1
	どちらともいえない	30.1	20.2	26.1	19.9	42.7	32.6	61.9
	そう思わない	24.6	21.6	22.7	31.8	19.1	38.2	19.1
国や企業のオンライン対応が進み、デジタル化が進展する	そう思う	55.7	70.8	67.5	61.5	33.5	42.9	24.1
	どちらともいえない	28.1	16.3	18.7	20.9	43.8	35.2	63.0
	そう思わない	16.2	12.9	13.8	17.6	22.7	22.0	12.9
三密を避け、社会的距離を保つことを意識するなどの行動が習慣化する	そう思う	65.9	76.2	76.5	65.0	58.3	59.9	32.5
	どちらともいえない	23.2	15.4	14.5	20.8	26.4	26.1	59.3
	そう思わない	10.9	8.4	9.0	14.2	15.3	14.1	8.3
店舗での買い物より、ネット通販が主流になる	そう思う	43.5	60.7	50.7	38.1	35.0	25.0	17.0
	どちらともいえない	39.7	27.6	35.5	39.1	39.9	51.9	70.9
	そう思わない	16.8	11.7	13.8	22.8	25.1	23.1	12.1
現金の利用より、キャッシュレス決済が主流になる	そう思う	52.1	67.8	62.9	51.5	33.3	42.0	21.3
	どちらともいえない	32.4	21.2	25.8	27.5	40.4	36.9	70.7
	そう思わない	15.4	11.1	11.4	21.1	26.3	21.0	8.1

3—結果のまとめ

以上のとおり、不安に関する質問、行動や行動時間の増減に関する質問、感染の収束や経済回復等への展望に関する質問の回答の特徴から、6つのグループに分けることができた。感染そのものや経済への影響に対する不安、買い物や移動の自粛度合い、将来展望については、それぞれ異なる考えをもっていた。

買い物や移動、娯楽施設の利用は、不安を感じる割合が高いクラスほど行動を自粛している傾向があった。クラス1は、クラス2と同様に不安を感じているにもかかわらず、「スーパーでの買い物」「電車やバスでの移動」がクラス2ほど減少していないのは、クラス1が比較的若く、就労や子育てを行う必要があるからだと考えられる。

もっとも行動の自粛度合いが弱いクラス4でも、買い物や電車やバスでの移動、各種施設の利用が減少した人の割合が、増加した人の割合より高かった。また、感染そのものに対する不安は感じていないが、感染リスクから各種施設を利用しにくくなることや、自粛ムードでぜいたくしにくくなることについては、クラス1やクラス2と同様に不安を感じている割合が高い。比較的若い人が多いため、もともとの生活や行動が広範囲にわたっており、不安は感じないが自粛を行っているものと推測できる。

不安を感じる割合が高いクラスほど、感染の収束や経済の回復には否定的だった。ただし、デジタル化や三密を避ける行動の習慣化、キャッシュレスの拡大等は感染の収束や経済の回復とは異なり、不安を感じる割合が高いクラスでも、進展すると考えられていた。不安や行動の増減で「どちらともいえない」と回答することが多かったクラス5は、デジタル化や三密を避ける行動の習慣化、キャッシュレスの拡大も進展しないと考えており、新型コロナウイルス感染が日々の生活に及ぼす影響を他クラスと比べ小さくみているようだった。

感染拡大の予防と経済活動の両立が求められる中、公共の場におけるマスクの着用有無や、自粛度合いの違いは、人それぞれの考え方に委ねられており、考え方の齟齬が、互いにストレスになっている可能性がある。